



つづく つながる 夢を育てる学び舎
国立二小だより

令和4年(2022年)8月29日

国立市立国立第二小学校

校長 小林 理人

「だれか」じゃなくて自分から

校長 小林 理人

青い空 青い海
みんながわらう場所を あたり前にするために
「だれか」じゃなくて 自分から

これは国立市が主催する「ふつうの日になったのか原爆の日」展に選出された6年生児童の「平和を紡ぐための一行のコトバ」です。1600点を超える応募作品の中から選出されたこの言葉からは、平和への素直で真っ直ぐな想いを感じます。また、不安や心配が続く中、未来に向かう前向きな姿勢が私たちに勇気を与えてくれる素晴らしいメッセージです。

夏休みに入り感染者数が急激に増加し、8月にはピークを迎えました。また、引き続き異常気象で、猛暑や豪雨などによる被害も報告されました。さらに、不安定な国際情勢は、平和や安定など私たちの願いとは反対の方向に向かっているような状況もあります。このような不安や心配が続いた夏休みでしたが、未来を担う子供たちは前向きです。校庭では真っ黒に日焼けした子供たちが、暑い夏を思い切り楽しんでいました。また、高校野球などの全国大会も開催され、夢や希望に向けて汗を流して頑張る若者の姿は逞しく、私たちに元気と勇気を与えてくれました。

一方で、今年の夏は感染者数が増加する中、対策を講じながら計画通り実施された催しが多かったようです。3年ぶりに開催されたものも多く、その楽しさや喜びを改めて味わうとともに、未来に向けてその意義や意味を感じたり考えたりする良い機会にもなりました。

7月末に行われた本校の二松クラブも3年ぶりに行われた催しの一つです。再開にあたっては、現状やこれから先の運営を考え、無理のない内容や方法など持続可能という視点で見直し実施しました。そして、講師の方や地域、保護者の皆様のご協力により、「知恵や技の伝承」「子供たちと一緒に楽しい時間を過ごす」等のこれまで大切にしてきたことを実現するとともに、これから先の在り方を考える上でも手応えや見通しをもつこともできました。

更に嬉しかったのは二松クラブで育った子供たちや卒業生の保護者の皆様が講師や講座のお手伝いとして参加してくれたことです。地域や学校で大切にしてきた二松クラブ創設の想いが、子供たちや地域、保護者の皆様の力で継承されていることを実感しました。

先週は5年生の野外体験教教室が3年ぶりに実施されました。子供たちは八ヶ岳山麓の大自然の中で、マス釣りや牧場での体験などを通して「命」をいただくことの尊さを学ぶことができました。また、友達と共に行った協同生活、キャンプファイヤーや火起こしなどの集団活動では、自らで考えて行動する力を発揮し、仲間と共に過ごす楽しさや一体感を味わうことができました。そして、そのことが自信となり、二小のリーダーとなることへの意識の高まりを感じ楽しむようになりました。

子供たちは地域や保護者の皆様の力や支えにより、夏休みならではの前向きな経験や挑戦ができた子供も多かったようです。また、不安や心配も前向きな気持ちをもつことで乗り越えることができるということも少しずつ分かってきたようにも思います。今日から2学期が始まりました。コロナ禍の継続等により不安や心配はなくなることはないでしょう。しかし、これまで行ってきたことや夏休みの経験、挑戦で得た知恵や工夫を活かし、今できることや持続可能な生活につながることを考え、「だれか」じゃなくて 自分から、行動、発信できる2学期にしていきたいと思えます。